令和元年度　　太良町立多良小学校　学校評価結果

1　学校教育目標

元気いっぱい　笑顔いっぱい　ともに学び合う　多良っ子の育成

2　本年度の重点目標

重点１　確かな学力の向上
〇　力をつける国語科算数科指導の研究
〇　読書習慣の定着
〇　基礎・基本の徹底
〇　基本的生活習慣・学習習慣の定着
〇　幼保小中連携と交流

重点２　豊かな心の育成
〇　道徳教育の工夫と充実
〇　人権・同和教育の推進
〇　生徒指導・教育相談体制の充実
〇　いじめのない学校の推進
〇　異学年「たてわり活動」による交流の促進
〇　特別支援教育の充実

重点３　太良町大好きっ子の育成
〇太良町の自然、文化、人材の積極的な活用
「人・もの・ことの活用：多良岳、有明海、地域の人材等」

※達成度
Ａ：ほぼ達成できた
Ｂ：概ね達成できた
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

3　目標・評価

①　個人差に対応した指導による学力の定着と向上

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	〇学校経営方針	学校教育目標の周知	・今年度の重点目標を策定し、教職員、児童、保護者への認知度を85%以上にする。 ・重点目標達成のための手だてを各プロジェクトと連携し、推進力を高める。	・学校目標は校内の見えるところに掲示をし、職員の意識化を図る。 ・職員会議、全校朝会等で説明する。 ・学校便り、PTA総会、懇談会等で今年度取り組むことを具体的に説明する。 ・各プロジェクトからの報告や企画委員会等で進捗状況を把握し、推進力を高める。 ・学校教育目標と学級目標及び職員の業績評価表等との関連づけを図る。	A	・学校のいろいろな場所に学校目標を示すことができ、職員のみならず子どもたちへも常に学校目標を意識させることができた。 ・児童総会を開催し、児童会目標を設定してもらったが、学校の教育目標との関連づけがなされたので、子どもたちに身近になった。 ・ここ数年同じ学校目標で進めてきたので、保護者への認知度も85%を超えることができた。 ・各プロジェクトでも学校目標を意識しての取組だったので、共通理解がきちんとできていた。	・より徹底していくためにも、来年度の学校目標は大幅な変更を行わない。 ・今後も学校便りやPTA総会、学級懇談会などでの啓発を図っていく。 ・今年度同様、来年度も業績評価表に学校教育目標を意識した内容を盛り込ませ、日々の指導に生かしていく。 ・児童会目標との関連付けを図る。
	〇開かれた学校づくり	開かれた学校づくりの推進	・授業参観の保護者出席率75%以上をめざす。 ・学校行事等への保護者、地域住民の参加延べ人数1、500人以上をめざす。	・日曜参観、運動会、たらっ子学習会、教育講演会等で保護者、地域と連携した教育活動を続け、開かれた学校づくりをめざす。 ・学校だよりや学級だより、HP等の紙面を工夫し、保護者に気軽に読んでもらえるようにする。 ・道徳を中心として様々な活動において、地域人材を積極的に活用する。	A	・6回の授業参観の内、3回で保護者の参加率75%を超えることができた。祖父母参観やたらっこ学習発表会では、祖父母の参加も多かった。 ・学校HPに学校だよりや道徳通信をはじめ、各種お便りを掲載して情報発信することができた。また。必要に応じてメール配信することができた。 ・家庭科や総合的な学習の時間、道徳科の授業において地域の方々にGTとして参加していただいた。	・午後からの授業参観には、75%を超える参加率があるが、午前中の授業参観では50%代である。PTAと協議をして、時間帯を考えたい。 ・5年生が世話になった方々を学校に招き「感謝の会」の開いた。お礼をすることにより、次年度以降の協力につなげていきたい。
	〇教職員の資質向上	校内研究及び職員研修の推進	・教科研究及び課題研修の充実 ・ICT機器の利活用の充実・推進 ・服務規律等のコンプライアンスの徹底	・全職員が道徳の授業提案を行い、研究を深める。 ・プロジェクトごとに実態を踏まえた課題研修を立案し、学校全体としての取り組みを推進する。 ・ICT（タブレット端末）を利活用した授業について研修を深め実践する。 ・危機管理及び服務規律等の研修の計画的な実施により職員の意識を高める。	A	・昨年度までの道徳の研究を継承し、どの学年も協力体制のもと全員授業を達成した。 ・校内研究を中心に、ビデオや映像資料の効果的な活用についても考えることができた。 ・学校訪問時には、統一した教室環境等を提案するなどして、学校目標と学級経営の関係性を意識させ、様々な教育活動を展開することができた。 ・4月から始まる「プログラミング学習」の授業を企画し、全職員で研修することができた。 ・職員研修や毎月の「ゼロの日」を確実に実施し、服務規律の保持に努めた。	・4月から導入されるプログラミング学習について、国語や算数等教科学習の中でできる内容で研修・研究を進めていきたい。 ・「ゼロの日」を使って、危機管理・服務規律保持についての研修を計画的に行い、また、自分たちで互いに声をかけ自制できるようにする。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	衛生管理の改善・充実	・明るい職員室づくりをめざし、美化や環境を整える。 ・多忙感の解消に努める。	・明るい挨拶や笑顔、感謝の言葉が飛び交う職員室になるよう声かけを行う。職員間のコミュニケーションを図り、相談し合ったり、協力し合ったりする職場作りをめざすとともに情報の共有化を図る。 ・各自の人事評価に明記し、達成できるよう服務に対して意識改革しながら職務に当たる。 ・職員室の整理整頓を定期的に行ったり、連絡黒板を使用したりして計画的に業務遂行を意識させる。 ・タイムマネジメントを行うと共に毎週1回、定時退勤日を毎週金曜日に設け確実に実施できるようにする。	B	・学年主任や校務分掌における各主任等を中心に日頃から情報交換を密にし、連絡会等で全職員で共有し、早期対応を心がけたことで、児童の問題行動や保護者の要望等、迅速に対応することができ、多くの時間を費やすことはなかった。 ・学年間、学年グループ間における支援や助け合い、また、プロジェクト部長を中心とした部の協力体制により安定した校務の運営ができていた。連絡黒板やメモ用紙等アナログ的手法で計画的に業務を遂行することができた。 ・定時退勤日は、全職員で十分に取り組むことはできなかった。	・学習指導や校務分掌で使用したり作成したりしたデータを確実に保存し、次年度も有効活用できるようにしていく。 ・若手が増えていく今日、今後も引き続き学年・学年グループ間の協力体制に加え、管理職や教外職員も加えた全職員体制で指導にあたる。 ・業務改善こそ、全員の課題であり、どうすべきか、できることとできないことをすみ分け、1つでも多くの改善策を見つけ実践していく。
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・授業の振り返りで「よくわかった」「わかった」と評価する児童80%以上 ・授業改善に向け、全教員が年間1回以上の授業を公開する。	・毎時間、めあての提示からまとめ・振り返りを意識した授業を心がけ、毎時間授業の振り返りを行う。 ・校内研究を軸として、学年グループ等で授業の相互参観や授業研究会を実施する。	A	・全教科にわたって、めあての提示から学び合い活動、まとめ・振り返りと学習過程がしっかりと定着していた。児童が主体的に授業に参画し、「分かった」といえる授業を目指していく。 ・低・中・高学年それぞれ、校内研究（道徳）の全校研、グループ研において、事前の話し合いから相互の授業参観、さらに事後の研究会まで自主的に取り組むことができて、研究授業が充実していた。	・教師主体の知識注入型の授業から脱却するために、児童同士の学び合いや話し合い活動を積極的に取り入れ、「授業づくりのステップ1・2・3」を活用して、」週1回は自分の授業を自分で自己評価していく。 ・各教科における「プログラミング学習」について学校全体で取り組むなど、さらに、内容面が向上するように、校内研究で研修を深めていきたい。
	●　学力向上	基礎・基本の確実な定着	・学業指導を徹底するとともに、家庭学習の充実を図る。 ・QRT学力調査結果で全国平均を上回ることをめざす。 ・家庭学習強化週間の得点を95点以上にすることをめざす。	・授業中の正しい姿勢、返事を徹底する。 ・算数ノートの書き方を統一し、ノート指導の充実を図る。 ・学習用具チェックを毎週水曜日に行う。 ・「たらっこカード」を実施する。学習カードには連絡帳・音読カード・日記の機能をもたせ、日々の家庭学習でも力をつけさせる。生活カードの振り返り5項目については、全校で統一し、学習習慣の定着を図る。 ・年間5回、家勉週間を実施し、家庭学習の充実と家庭への啓発を行う。 ・「さんさんタイム」「チャレンジタイム」を設定し、既習事項の復習に取り組ませる。	B	・学習用具チェックを毎週行うことで、徹底を図ることができた。しかし、特定の児童で準備が十分でない場合があった。 ・TTや少人数指導を実態に応じて取り入れ、個に応じた指導を行うことができた。 ・家勉強化週間を年5回実施し家庭学習の習慣付けができた。また、今年度よりノーテレビノーゲームデー」を毎月行うことで、家庭での時間の使い方についても連携して取り組むことができた。 ・「さんさんタイム」や「チャレンジタイム」では、問題集を準備することで、計画的に取り組むことができた。	・学習用具の準備では、家庭と連絡を取って改善したい。また、定規や赤えんぴつの使い方など、全校で統一した指導ができるようにする。 ・学習状況調査では、算数の「思考・判断」の観点で、県の到達度に届いていない学年があり、これまで以上の教材研究の時間の確保と授業改善を行う。 ・「ノーテレビ・ノーゲームデー」と「親子読書」の取組を同時に行うなど、これまでの取組をより効果的に行えるようにマネジメントを行う。
		言語活動の充実	・自分の思いや考えをもち、発表できる児童80%以上をめざす。 ・学力調査結果を県が示す十分達成レベルに近づける。	・「話し方名人」、「聞き方名人」話型を示して活用を進めることで、話し方、聞き方の技能を向上させる。 ・授業の中で、自分の考えを書く時間を確保し、思いや考えを豊かに表現できる力を育てる。 ・マスターカードを活用し，学習用語への理解を深める。 ・児童全員が国語辞典を準備し、わからない語句の意味をすぐに調べて活用できるようにしていくこと で、語彙力や表現力を育てる。 ・様々な学習において、ペアタイムやグループタイムなど交流活動の時間を設け、考えを深めたり、思考力、表現力を高めたりできるようにする。	B	・「話し方名人」「聞き方名人」を掲示したことで上手な児童を褒めて活用できた。 ・学力調査の無解答率は県平均よりも低い。週末の日記や作文指導、毎時間の道徳のワークシートへの書き込みにより、自分の思いを書いて表現しようとする力がついてきたと思われる。 ・ペアタイムやグループタイム、時間旅行等、交流活動を行うことで、友達の考えを聞き、自分の考えと比べながら発言できる児童が増えてきた。また、集会活動での感想交流では、自分から手を挙げて発表しようとする児童も増えてきた。しかし、自分の思いや考えを発表できる（概ねできるも含めて）と答えた児童は**74%**であり、発表に自信がない児童が多いと思われる。 ・マスターカードの活用ができなかったので、学習用語の理解に差があった。	・学び合い活動の中でペアタイムやグループタイム、時間旅行を継続して行い、自分の考えを伝える機会を増やす。また、できるようになったことを賞賛することで、発表に自信を持たせていく。 ・日記や作文指導、ワークシートへの書き込みや国語辞典の利用を引き続き行うことで、さらに語彙力や表現力を伸ばし、自分の思いや考えを豊かに表現できる力を付けていきたい。 ・自学への意欲的な取り組みと共に内容の充実を図れるよう、良い取り組みを紹介する「自学コンテスト」を実施する等、全校で工夫していきたい。 ・マスターカードの活用で、学習用語の理解に役立てたい。
		読書指導の充実	・読書が好きだと言える児童の割合を、「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせて、**90%**以上をめざす。	・朝読書の時間の設定し、読書に親しむ時間を確保する。 ・母親部やボランティアによる読み聞かせや、教師による読み聞かせの時間を効果的に組み込む。 ・各学年のお薦めの本や教材関連図書のコーナーを設置し、読書の幅を広げるための手立てを取る。 ・図書委員会による読書意欲を高めるための取り組みを工夫する。 ・月１回「親子読書の日」を設定し、家庭での読書を奨励する。保護者からの感想を学校からのお便りに載せて、関心を高める。 ・小中連携の取り組み「6年生の中学校図書室利用」を行う。	B	・朝読書が定着し，読書に親しむ姿が増えてきた。 ・ほとんどの児童が年間60冊貸し出しを達成することができた。 ・母親部とボランティアによる読み聞かせを月2回金曜日に実施することで、色々な本に触れあうことができた。 ・「お薦めの本」読破の児童はまだ少なく、読む本の偏りが大きい児童が多い。 ・図書委員会による図書館まつりや読書でパズル等，工夫した取組を実施したことで、図書館の色々な本に興味をもたせることにつながった。 ・月に1回の「親子読書の日」は、保護者の協力があり、家庭での読書習慣づくりにつながった。うち読について、**73%**の児童ができていると答えているが保護者は**54%**であった。 ・6年生の中学校図書室利用は好評で、小中連携のよい取り組みとなった。	・家庭での読書習慣を定着させるために、ブックバッグを持ち帰らせたり、家庭学習としての読書を取り組ませたりする。 ・今後もPTA母親部やボランティアによる読み聞かせを実施していく。親子読書や小中連携の取り組みも継続して行っていく。 ・ジャンルの偏りを減らすためにおすすめの本35冊を必ず読むような具体的な手立てをとる。
	〇小学校低学年の環境改善充実	基本的生活習慣・学習習慣の育成	・「早寝・早起き・朝ご飯」の基本的生活習慣がきちんとできる児童90%以上をめざす。 ・人の話を最後まで聞くことができる児童を増やす。 ・全員がほぼ毎日宿題をすることをめざす。	・毎日たらっこカードによる生活チェックをして意識付けをする。 ・時間割や学級通信で知らせる。 ・「声のものさし」や「聞き方名人」を掲示し意識付けをする。 ・毎日90字程度の日記と国語、算数の宿題を出す。 ・宿題を毎日点検し、励ましの言葉を添える。	B	・「朝ご飯」は100%の児童が食べて登校できているが、「早寝・早起き」ができていない児童がいる。引き続きたらっこカードや学級便りなどを活用し、今後も家庭との連携を図っていく。 ・各教科の授業で、話し手を意識させることで聞き方がよくなり、話し方もよくなってきた。 ・全員がほぼ毎日宿題をすることができ、日々の声掛けや家勉習慣での家庭からの励ましにより、家庭学習の習慣が付いてきた。	・たらっこカードによる生活チェックをして意識付けを継続し、日常の健康観察から睡眠や摂食の状況を確認していく。また、通信等でも知らせることで、家庭との連携を図りながら基本的生活習慣・学習習慣を身に付けさせていく。 ・授業だけでなく、異学年交流や集団下校でも話し方や聞き方の指導を行う。

②　豊かな人間性を創造する教育活動の推進

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	〇特別支援教育の充実	教員の専門性と意識の向上	・支援を要する児童の実態把握と共通理解。 ・校内支援会議を経て、支援体制の充実を図る。 ・共生教育を進める。	・学年始めに全職員で要支援児童の確認をし、支援体制を整える。週に1回の職員連絡会で配慮を要する児童の共通理解を図る。また、月に1回の「共通理解の日」に、全体で支援体制を確認する。 ・学級担任等によるチェックリストを使った児童の実態把握（6月）と校内就学委員会を8月、10月に実施する。 ・専門機関との連携を図り、障害のある子どものための学校生活支援事業の活用をし、支援の質の向上に努める。 ・個別の支援計画の理解を深め、作成と活用を進める。 ・特別支援教育に関する職員研修を長期休み中に1回行う。 ・全校朝会や各クラスの学活に入る等して考える機会を設ける。	A	・専門機関に学校の様子を伝えたり、検査の結果や所見を伝えてもらったりして情報提供に努めた。医師受診に立ち会って、今後のことを確認することもあった。連携して支援を行った。 ・校内適正就学委員会に向けて検査を進め、町の就学委員会にも期日を守り、提出することができた。 ・担任が個別の支援計画を書くことを徹底できたが、やや遅れ気味であった。 ・特別支援教育の校内研修は、個別の支援計画を取り上げ、共通理解をし、各時間の確保に努めた。 ・特別支援学級児の通常学級で、道徳を生かした授業をし、共生教育をした。	・服薬支援をしている児童については、学校生活の様子を提供し、長期的な支援に生かしていく。 ・校内就学委員会に向けて、チェックリストを用意し、1学期から検査等を計画的に実施する。 ・支援を要する児童については、夏休みに校内支援会議で一人ずつ挙げ、共通理解する。 ・校内研修を夏季休業中に1回実施し、個別の支援計画を実際に書く形にし、足並みをそろえたい。
	〇教育相談	教育相談の充実	・いじめ、不登校の早期発見・早期改善のために支援の必要な児童の実態を把握し、適切な支援を行う。	・6月と10月にQ―Uを実施して、早めに分析を行い、指導に生かす。 ・実態調査（毎月末の「こころのアンケート」等）により、児童の心の状態の実態の把握に努める。 ・教育相談月間を設定し担任と全児童との面談を実施する。 ・気になる児童、配慮を要する児童について情報交換を週に1回行い、必要に応じてケース会議を開く。 ・不登校傾向児童については経過や対処の方法を共通理解する。	B	・Q-Uを実施、分析研修を行うことで児童の実態を把握することができた。また、今年度は2回実施することができたため、研修を受けた後の児童の変化の様子も把握することができ、児童の支援に活かすことができた。 ・毎月心のアンケートを実施し、児童の実態を把握して気になる児童に対応することができた。 ・教育相談月間を実施し、担任と全児童との面談の機会を作ることができた。 ・気になる児童や配慮が必要な児童に関する情報交換を週に一度行い、全職員で児童の様子を共通理解することができた。 ・不登校傾向や別室登校の児童について、必要に応じケース会議を行い、支援を続けている。	・Q-U、心のアンケートを引き続き実施し、児童の実態把握を行う。Q-Uについては児童の変化を把握するために、毎年2回実施したい。 ・引き続き、教育相談月間で担任と児童が一対一で話ができる時間を確保する。 ・週に一度、気になる児童・配慮が必要な児童に関する情報交換を行い、職員間での共通理解を図る。必要に応じてケース会議を開き、指導を充実させる。 ・不登校傾向や別室登校の児童について、SC中心の相談員と連携しながら継続的に支援を行う。校内でも支援体制を整え、不登校傾向や別室登校の児童に対する支援を行う。
教育活動	●心の教育	自他共に思いやりのある児童の育成	・生徒指導の充実 ・道徳教育の推進	・全体指導やプロジェクトの輪番制による全校集会での話に取り組み多面的な指導を行う。 ・月目標のチェックを継続する。 ・各教科や総合的な学習の時間における体験活動を実施する。 ・ふれあい道徳を実施し、家庭や地域との連携を図る。 ・道徳の時間を充実させ、言葉遣いや友達との関わり方について考えさせることを通して、温かい学級・学校づくりに取り組む。	A	・生徒指導の全体指導については、職員で共通理解を図り、学級での指導や全校集会や放送などで、ある程度徹底させることができた。 ・生活科で野菜作り、総合的な学習で大豆や米づくり、福祉体験やユニバーサルデザインについて学ぶことができた。 ・道徳を要として、思いやりの心を育て、温かい学級・学校づくりをすることができた。	・来年度も、全校集会での生活の話をプロジェクトで輪番制で取り組むようにし、多面的な指導ができるようにする。 ・言葉遣いや友達との関わり方については、全校集会の話などで指導していったが、継続していく必要がある。 ・校内研修で道徳について取り組み，道徳推進教師による授業を行ったり、研究授業を各担任が行ったりしてきたが、今後も日々の道徳の授業を大切にしていく必要がある。
	●いじめの問題への対応	いじめのない学校づくり	・いじめ0の学校をめざす。	・こころのアンケートの結果を活用する。 ・職員間・保護者との連絡を密に行い、課題には早期対応に心がける。 ・年に3回「児童理解研修会」を設け、困っている子どもについての共通理解を図る。 ・いじめ防止対策委員会を開いていじめ防止に努める。	A	・心のアンケートの結果については毎月全職員で共通理解することができ、悩んでいる児童に対する対応を考えることができた。 ・「児童理解研修会」の時間を設けていじめの早期発見に努めることができた。 ・いじめ事案が数回起こり、目標の達成ができなかった。	・心のアンケートの継続的な実施と全職員での共通理解に努める。 ・今後も、県いじめ防止対策研修会の伝達などいじめ対策の研修会を行い、　全職員の共通理解を図っていきたい。 ・今後も常に児童の様子に気を配り、家庭との連携も密にしていくことが大切である。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
特定課題	〇特別活動	集会活動の充実	・縦割り活動を年間15回程度実施し、異学年の豊かな人間関係を作る。 ・児童が主体的に企画・運営する集会活動年間3回以上行い、児童の発達段階にふさわしい役割や協力する力を育てる。	・縦割りノートや委員会ノートを作成して、活動の見通しを持たせることで、活動が計画的にできるようにし、内容の充実を図る。 ・縦割り活動では共遊だけでなく、勤労体験や体育的活動、会食を実施する。 ・集会や縦割り活動で、児童が主体的に活動できるように、プロジェクトで十分話し合いをし、アイディアの提示等を行う。 ・集会や縦割り活動の内容を代表委員会で話し合い、児童が主体的に取り組めるようにする。	A	・縦割り活動を年間15回以上 実施することができた。高学年が下学年が楽しめるよう配慮することができ、下学年も毎回楽しみにしている。 ・平和集会、人権集会、6年生を送る会等、児童が主体的に企画・運営する集会活動を年間3回以上行うことができた。また、代表委員会で児童会目標達成のための取組を話し合い、委員会や学年・学級で取り組むことができた。	・委員会ノートの振り返りカードの内容を簡略化し、記入のための時間を短縮することで活動時間を確保する。 ・委員会や縦割り班のメッセージボードを設置し、メッセージを書いて自由に貼れるようにすることで、活動への意欲を高める。 ・学級会ノートを活用し、各学級での学級会活動を活性化することで、児童会活動の活性化を図る。
教育活動	●健康・体つくり	運動習慣の改善や定着化	・健康教育の充実 ・体育的行事を通して、意欲的に運動に取り組む児童を育成する。 ・外に出て遊ぶことが好きな児童85%以上をめざす。	・防煙教室、薬物乱用防止教室、歯みがき指導、命の教育講演会を実施する。 ・運動会、マラソン大会、縄跳び大会等体育的行事を計画的に実施し、運動習慣の定着を図る。 ・スポーツ委員会等児童企画のスポーツイベントの実施を促し、運動に親しむことができるようにする。 ・スポーツ委員会に放送で呼びかけさせ、外遊びを奨励する。 ・一輪車や竹馬、ジャンピングボードなどの外遊び道具の充実や、スポーツチャレンジの参加を呼びかけ、児童が積極的に外遊びを行えるようにする。	A	・講師を迎えての講演会等をそれぞれ行った。健康教育および体育的行事等、計画的に実施することができた。運動に親しませ、心身を成長させることができた。 ・児童アンケートでは、外で遊ぶことが好きだと答えた児童は、88.3%だった。 ・運動場の環境が良くなり、雨が止むとすぐに乾いて使えるようになったため、外遊びをする児童が増えた。 ・昼休みに一輪車や竹馬を自由に使えるようにした。低学年を中心に遊ぶことができていた。遊びに親しみながら、体幹を鍛える、バランスをとるなど、器具を用いた運動能力を向上させていた。 ・たてわり活動で長縄の8の字跳びに取り組んだ。低学年のお世話を高学年が行うことで、低学年児童のなわとびへの恐怖心が薄れ、技術向上につながった。 ・新体力テストやなわとび大会での取り組みを生かし、スポーツチャレンジへ参加した。他校との比較ができ、児童の意欲が高まった。	・体育授業の充実のため、全学年の年間計画を共通理解し、時期を揃えて運動場の陸上競技やボールゲームのコートのポイントを打ったり、器械運動の運動器具を準備しやすくしたり、アドバイスカードを掲示したりして学習環境を整えていきたい。 ・大きなドッジビー用フリスビーを購入した。昼休みに各学級でのみんなで遊びやたてわり班遊びで活用され、遊びの幅が広がった。今後もいろいろな外遊びを紹介し、工夫した遊び方や多様な運動に親しませたい。 ・よりスポーツチャレンジに取り組めるよう、チャレンジ週間を設定したりたてわり活動で取り組んだりして、たくさんの種目への参加を呼びかけていきたい。

●は共通評価項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、〇は独自評価項目

4　本年度のまとめ・次年度の取組

〇評価項目の各観点では、9観点でA、6観点でBであり、本年度の学校教育目標は概ね達成できたと言える。
〇学校評価アンケートでは、児童・教師ともに昨年度より学校目標に対する意識が高い結果となり、学校目標を意識した生活をしたり、教育活動にあたることができた。
〇道徳教育については、昨年度までの研究の積み重ねを受けて、研究主任を中心にして全員授業体制で授業実践を行うことができた。
〇今年度から導入された「志を高める教育」では、毎時間の授業において、めあての提示・振り返りの発表・ノートの取り方等を学校全体で統一して取り組んだ。今後もどの子にも分かりやすい授業の定着をめざしていく。
〇教育相談月間などの取り組みや気になる児童に関する情報交換を通して児童理解が進んだ。特別支援教育コーディネーターを中心に、日頃から養護教諭、心の相談員やSC、適応指導教室「おれんじ」の職員と連携して支援してきた。不登校児童やその傾向がある児童などまだたくさんの気になる児童がいるので今後も多くの職員の目で見守っていく。Q－Uテスト（2回実施）や心のアンケートを実施しているが、多くのクラスに要支援の児童がいる。よりよい学級集団づくりに関する研修が必要である。
〇特別活動の領域がAとなっているが、たてわり活動や集会活動等を充実させることで、主体的な活動がより促進されたと思われる。担当者による「学級活動」の具体的な提案によりすべてのクラスで学級活動の実践が推進されることが望まれる。
〇多くの体育的行事を計画的に実施することができたが、楽しみながら意欲を持って運動する児童を育てるためにスポーツチャレンジなども活用していく。